

# アンケート調査からみた新今宮界隈の外国人個人旅行者の実態報告

## 国際ゲストハウス地域の創出に向けた活動報告 その3

The Actual Situation from the Questionnaire Survey on Foreign Individual Tourists in Shin-Imamiya:

Progress Report on Social Practices for the Creation of International Guesthouse Area Part.3

有村 遊馬\*・松村 嘉久\*\*・佐藤 有\*\*\*

ARIMURA Yuma, MATSUMURA Yoshihisa and SATO Yu

本稿の目的は、先行研究の成果と比較検討しつつ、JR 大阪環状線新今宮駅界隈に宿泊する外国人個人旅行者 (Foreign Individual Tourists : 以下は FIT) の実態を把握することにある。研究手法としては、2009年8月から9月にかけて、新今宮界隈に立地する8軒の簡易宿所 (以下は簡宿) の協力を得て、そこに宿泊する FIT に対してアンケート調査を行った。本稿ではまず、アンケート調査の方法を概説し、アンケート回答者の属性を分析する。続いて、アンケート調査の結果から、FIT の旅行の実態に迫り、新今宮が国際ゲストハウス地域として成長するための示唆を探りたい。

キーワード: 大阪 (Osaka), 外国人個人旅行者 (Foreign Individual Tourists), 簡易宿所 (Affordable Guesthouses), 大阪国際ゲストハウス地域創出委員会 (OIG), アンケート調査 (Questionnaire Survey)

### 1. はじめに

「日本最大のドヤ街」と呼ばれる大阪の釜ヶ崎は、JR 大阪環状線新今宮駅の南側に広がる。近年、この新今宮界隈を訪れる FIT が増加している (松村・濱中 2008)。「ドヤ街」が抱える問題のひとつが簡宿の空室増加などに伴う経営問題である。打開策として簡宿の設備を他の用途に転用することが図られ、そのひとつの方向として、FIT 向けの格安ゲストハウスに転用を果たしたものがあ (松村 2007)。宿泊施設としての存続を模索するなか、日雇い労働者にかわる新たな旅人として FIT の存在に着目した簡宿経営者の思惑が、少しでも安く旅をしたいという FIT 側のニーズとマッチしたことが、こうした動きを加速させている。

新今宮界隈において、大きなバックパックを背負った外国人が街を闊歩する姿が日常的になりつつある今、その実態を把握する必要性に異議を唱える余地はあるまい。そもそも、訪日 FIT の動向を全国レベルで把握するような調査が必要であるが、具体的な調査の企画や実施が困難であり、FIT を主な対象として実態に迫る研究は見当たらない。この地域でも、FIT が急増したの

がここ数年のことであり、その動態に関する本格的な調査はほとんど行われていない。先行研究としては、松村・濱中 (2008) (以下は 06 調査) が 06 年 9 月中旬から 10 月下旬にかけて、ジェイコム ビジターズインダストリー研究所 (2009) (以下は 09 冬調査) が 09 年 1 月下旬から 2 月下旬にかけて、アンケート調査を行っている。しかしながら、06 調査から数年の変貌は激しく、冬季と夏季では FIT の実態がかなり異なる、と経験的に把握されている。

そこで、我々は、先行研究のアンケート設計を基本的に踏襲し、新今宮界隈の OIG に加盟する簡宿 8 軒の協力を得て、そこに宿泊する FIT を対象にアンケート調査を実施した。本稿では、06 調査や 09 冬調査との比較検討も行いつつ、アンケート調査の結果から、新今宮界隈に宿泊する FIT の最新の实態に迫り、国際ゲストハウス地域の創出に向けた示唆を探りたい。

### 2. アンケート調査の概要および回答者の属性

#### (1) アンケート調査の概要

本稿で分析するアンケート調査は、09 年 8 月 1 日か

\*大阪大学人間科学部・学部生 \*\*阪南大学国際コミュニケーション学部・教授

\*\*\*阪南大学国際コミュニケーション学部・学部生



ら9月30日までの間、OIG加盟の簡宿8軒（中央・中央新館・来山北館・来山南館・みかど・中央オアシス・太洋・東洋）に協力をお願いして実施した。具体的には上記8軒の簡宿にFITがチェックインする際に、アンケート用紙をフロントで配布し、回収していただいた。アンケート用紙はA4裏表に印刷され、英語・中国語（繁体字）・韓国語の3種類を用意した。アンケートの設問は20問で、09冬調査と全く同じである。

アンケートは305件回収され、このうち303件が有効回答で、男性が162名で女性が131名（性別無回答10名）であった。月別にみると、8月が222件、9月が81件であった。8軒の簡宿における外国人のべ宿泊数は、8月が7,845泊、9月が5,222泊であったが、連泊する者が多いので、303件の有効回答で十分に有意な分析ができると考える。

表1 地域別にみたアンケート回答者の性別

地域	実数	男性	女性	男女比 (男=1)	10代・ 20代	10代・20代の 比率(%)
ヨーロッパ	166	99	62	0.63	126	75.9
アジア	64	28	34	1.21	44	68.8
北米	41	17	22	1.29	37	90.2
オセアニア	23	12	11	0.92	16	69.6
その他	9	6	2	0.33	8	88.9
総計	303	162	131	0.81	231	76.2

表2 地域別にみたアンケート回答者の職業と旅行形態

地域	実数	職業			旅行形態		
		学生	教師	その他	団体	個人	無回答
ヨーロッパ	166	62	12	92	3	143	20
アジア	64	32	5	27	1	57	6
北米	41	20	8	13	0	37	4
オセアニア	23	3	7	13	0	21	2
その他	9	5	1	3	2	3	4
総計	303	122	33	148	6	261	36

表3 地域別にみたアンケート回答者の自己認識

地域	実数	Bussines sman	Budget tourist	Back packer	Common tourist	Other
ヨーロッパ	166	2	29	60	66	9
アジア	64	3	18	14	25	4
北米	41	1	18	10	12	0
オセアニア	23	0	13	7	1	2
その他	9	0	4	0	3	2
総計	303	6	82	91	107	17

表4 地域別にみた訪日回数

地域	実数	初来日	初来日 比率	2回	3回以上
ヨーロッパ	166	127	76.5	19	18
アジア	64	23	35.9	15	25
北米	41	26	63.4	9	4
オセアニア	23	12	52.2	7	4
その他	9	7	77.8	2	0
総計	303	195	64.4	52	51

## (2) アンケート回答者の属性

まずは、地域別にアンケート回答者の性別と年齢を確認しておきたい（表1参照）。地域別で最も多かったのはヨーロッパで全体の54.8%を占め、アジア（21.1%）・北米（13.5%）・オセアニア（7.6%）と続いた。非アジア圏という意味でのいわゆる欧米系は、実に全体の75.9%を占める。日本全体での訪日外客ではアジア系が7割強を占めるが、個人客の多い新今宮では欧米系が逆転している。

地域別に男女比をみると、地理的に日本と近いアジアと北米では男性よりも女性が多く、逆に遠いヨーロッパで男性比率が高い。年齢をみると、10代・20代の比率が全体で76.2%にもなり、30代も含めると9割を超える。どの地域からも、若い旅行者が新今宮に流入していることが分かる。

アンケート回答者の国籍は30数ヶ国におよび、多い順に並べると、スペイン（47件）、アメリカ・中国・フランス（29件）、イタリア（21件）、イギリス（19件）、韓国（18件）、オーストラリア（13件）、カナダ（12件）、ドイツ（10件）となり、上位10ヶ国で7割強を占めた。なお、中国国籍者のほとんどが、香港や台湾の在住者であった。今年、中国大陸からの訪日旅行者に対する個人旅行ビザ発給が解禁されたが、その影響は新今宮界隈では今のところ見受けられない。ビザ解禁からまだ日が浅いこともあろうが、ビザ発給が中国の富裕層を対象にしているため、そのニーズと新今宮界隈の簡宿がマッチしていないと考えられる。

この結果は、06冬調査とは大きく異なった。06冬調査で最も多かったのは、オーストラリア（375件中98件）で、以下は韓国（50件）、台湾（48件）、中国（30件）、アメリカ（25件）と続いた。06冬調査はリーマンショックの影響が強い時期であり、冬季であったので、オーストラリアからのスキー客が多く、近隣のアジア諸国からのFITが目立った。新今宮界隈のFITは、冬季はオセアニアからのスキー客とアジア諸国からの外客が、夏季は欧米系が中心となっている。なお、オセアニアからのスキー客は初来日の者が多く、さらに開拓の余地があるマーケットであろう。

次に、アンケート回答者の職業をみると、全体の40.3%が学生であり、これに教師を含めると過半を超える（表2参照）。8月に学生は85名、9月に37名いるが、月別回答者数からみて、特に夏季休暇の8月に多いとはいえない。09冬調査では、オーストラリアから



のスキー客にブルーカラーがいたが、夏季の FIT はホワイトカラーが圧倒的に多い。アンケートでは居住地も尋ねたが、国籍と居住地が異なる例が 40 件あり 13.2%を占めた。このうち 11 件は日本在住者、9 件は韓国在住者、7 件は中国在住者であり、職業で教師と答えたものが 14 件あった。東アジア在住の英語教師やビジネスマンが、夏季休暇を利用して大阪観光に来ている。

旅行形態に関しては、全体の 86.1%に相当する 261 件が個人旅行と回答していて、概ね全ての地域で 9 割前後を占めている (表 2 参照)。新今宮界隈の簡宿で旅行代理店経由の団体客を受け入れている所はないため、日本人旅行者も含めて、ほぼ全て団体やパッケージを利用しない個人客と見て間違いない。この傾向は、06 調査でも 09 冬調査でも変わらない。訪日目的では、レジャー・余暇と答えた者が 231 件 (76.2%) に達し、これに親族・友人訪問を加えると、全体のほぼ 9 割を占め、ビジネス目的はわずか 8 件であった。

アンケート回答者が自分自身をどのような旅行者と自己認識しているのかは、とても興味深い。今回のアンケート調査からは、全体の 35.3%に相当する 107 件が Common tourist, 同じく 30.0%の 91 件が Backpacker, 27.1%の 82 件が Budget tourist と回答している (表 3 参照)。全体と比較すると、ヨーロッパで Backpacker, 北米・オセアニアで Budget tourist と回答した比率が高い。ひとり旅かどうかという設問でも、ひとり旅は全体の 19.1%にあたる 58 件のみであり、意外と家族や友人と旅するものが多い実態が浮かび上がった。新今宮界隈は「Backpacker のまち」とメディアで紹介されることが多いが、決してコアな Backpacker に特化している訳ではなく、一般的な旅行者や家族旅行も含め、多様な層の FIT が来訪している事実は注目に値する。

訪日回数に関する設問では、全体のほぼ 3 分の 2 に近い 195 件が初来日であると回答した (表 4 参照)。初来日の比率は地理的に遠いヨーロッパや北米で高く、逆に近いアジアやオセアニアで低い。このことから、新今宮界隈は欧米系を中心に初訪日客の受け皿になるとともに、アジアやオセアニアのリピーター客も獲得していることがわかる。

### 3. アンケート調査からみた FIT の旅行実態

#### (1) 出入国と訪問国数について

出入国の地点として関西 (神戸港も含む) と答えた

者が、全体の 4 割弱を占め、入国よりも出国の方がややその比率が高い (表 5 参照)。出入国の手段としては、飛行機利用が 9 割前後を占め、関西国際空港が国際観光ゲートウェイの役割を果たしていることは間違いない。関西では船での出入国も一定数存在する。船では釜山・大阪、上海・大阪、天津・神戸、釜山・福岡間の国際航路が利用されており、利用者にはアジア在住者や旅慣れた周遊型欧米人が目立つ。

今回の旅の訪問国を、「日本のみ」と答えた人が実に 8 割を超え、その比率は特にアジアで高い (表 6 参照)。一方、日本以外も訪問すると答えた人は、全体の 17.2%にあたる 52 件で、このうち 32 件は 3ヶ国以上も周遊する旅人で欧米人が多い。このデータからも、周遊型のコアなバックパッカーが新今宮に集まっていることは事実であるが、それは決して多数派ではなく、むしろ、ごく一般的な格安志向の FIT が日本のみを目指して来訪している姿が浮かび上がる。

次に日本での滞在予定日数であるが、10 日以下と答えた者は全体の 18.2%で、アジアは 5 割弱とかなり高い (表 7 参照)。一方、アジア以外からの FIT は長期滞在する傾向が顕著である。大阪での滞在日数は、5 日以上と答えたものがアジアも含めて 3 割近く、これも一般的な旅行者よりもかなり長い。06 調査と比較すると、一般に、より長期間滞在する傾向が認められる。

表5 出入国の地点と手段

in/out	地点	実数	飛行機	船
入国	関西	108	99	9
	関西以外	187	183	4
出国	関西	113	100	13
	関西以外	170	165	5

表6 地域別にみた訪問国数

地域	実数	only Japan	左比率	not only Japan	3ヶ国以上訪問
ヨーロッパ	166	134	80.7	31	23
アジア	64	58	90.6	5	2
北米	41	35	85.4	6	3
オセアニア	23	14	60.9	8	3
その他	9	7	77.8	2	1
総計	303	248	81.8	52	32

#### (2) 旅の予算と訪問先について

次に旅の予算についてふれておきたい。今回の旅の輸送費を除く総予算が、15 万円以上と答えた者が 107 件 (無回答 86 件)、日本での総予算が 10 万円以上は 109 件あった。1 日当たりの食費や観光のための費用が、1 千円未満という猛者も少なくない (表 8 参照)。食費も観光のための費用も、1 日 1 千円台までに抑える者が、



アンケート回答者の過半数を超えている。日本での買い物の総額でも1万円以内と答えた者が32.3% (98件) を占める。

表7 日本における滞在予定

地域	実数	日本				大阪	
		10日以下	左比率	11-20日以下	21日以上	5日以上	左比率
ヨーロッパ	166	14	8.4	73	72	44	26.5
アジア	64	30	46.9	22	3	23	35.9
北米	41	5	12.2	9	22	14	34.1
オセアニア	23	4	17.4	10	7	7	30.4
その他	9	2	22.2	2	4	3	33.3
総計	303	55	18.2	116	108	91	30.0

表8 地域別にみたアンケート回答者の消費行動

地域	食費			観光のための費用			日本での買い物の総額		
	1千円まで	1千円台	2千円以上	1千円まで	1千円台	2千円以上	1万円まで	1万から3万円	3万円以上
ヨーロッパ	17	71	63	35	67	45	54	50	42
アジア	11	27	24	7	25	31	16	23	22
北米	3	21	16	6	17	16	15	9	14
オセアニア	3	11	9	6	8	9	10	7	6
その他	2	1	5	1	1	4	3	1	4
総計	36	131	117	55	118	105	98	90	88

アンケートに協力いただいた簡宿を選んだ理由も、全体の89.4%の271件が「リーズナブルな価格」を挙げ、「便利な立地」(157件)、「無料インターネット」(89件)と続いた。以上のことから、新今宮界隈のFITが、一般に、かなりの格安志向であることは間違いない。

FITがどのようにして旅や宿泊施設の情報を得ているのか、この点も興味深いところである。最も重要な情報源は、やはりインターネット(235件)であり、ガイドブック(75件)、ネットのコミュニティサイト(69件)、口コミ(59件)と続いた。

新今宮界隈は国際ゲストハウス地域として、関西圏観光の宿泊拠点を狙っている。新今宮から日帰り観光で訪問する都市としては、京都(145件)、奈良(110件)、神戸(94件)、姫路(79件)、和歌山(熊野古道・高野山も含む:24件)、広島(22件)、名古屋(17件)などが挙げられた。今回の調査ではJR Passを使っているのかも問うたが、実に160件が利用していると回答している。JR Passの存在を誤解している可能性もあるが、長期滞在する欧米系のFITが多いので、充分にあり得る数字である。

大阪市内で訪問する観光地は、大阪城(206件)、難波・道頓堀(175件)、梅田(136件)、海遊館(103件)、USJ(38件)、通天閣(30件)、大阪人権博物館(25件)の順に多かった。大阪人権博物館の健闘が目立つが、Lonely Planetで紹介され、新今宮から近いからであろう。

#### 4. おわりにかえて

新今宮界隈が国際ゲストハウス地域として成長するには、まだ課題が山積している。例えば、新今宮でより快適に過ごすために必要なものは何かという問いでは、両替・ATM(160件)、観光インフォメーションセンター(140件)、多言語表示(115件)の順に多かった。新今宮観光インフォメーションセンターが09年7月に開設されたが、まだあまり認知されていないようである。同センターでも、両替に関する問合せが多く、多言語表示の不備からか、目的地への行き方を尋ねるFITも多かった。

自由記述形式で問うた新今宮界隈の印象については、概ね好意的な回答が多かった。良い点として、少なからぬ人が挙げたのは、優れた交通アクセスや生活に必要なものがすべて揃う便利さなどであった。なかでも、フレンドリーな地元の人々や簡宿のスタッフに強い好感を抱き、感謝の気持ちを表している回答も多数見受けられた。一方、路上で無為にたむろする者が少なからず存在することや、洗練された都心とは異なる猥雑な雰囲気による不安を覚えたFITもいた。

新今宮界隈には、大阪でも特に人情味のあるあたたかい空気が流れている。FITの自由記述には、そのぬくもりを感じとった声が溢れていた。FITが求めているのは、何より飾らぬ人々との触れ合いではなかろうか。国際ゲストハウス地域としてはまだ改善の余地はあるが、必要な条件がこれだけ揃い、なおかつそうしたつながりを生み出せる場所は、日本にそう多くはなかろう。新今宮界隈は、唯一無二の旅人のまちとなりうるポテンシャルを秘めている。

#### 【参考文献】

- 1) ジェイコム ビジターズインダストリー研究所(2009):大阪を訪れる外国人個人旅行者に関する調査報告書, 政務調査(柳本顕 大阪市議員), pp.54.
- 2) 松村嘉久(2007):日雇と野宿のまち・釜ヶ崎を国際観光で再生する, 地域開発 Vol.515, pp.30-36.
- 3) 松村嘉久・濱中勝司(2008) 外国人個人自由旅行者の実態報告:釜ヶ崎の簡易宿所でのアンケートと聞き取り調査から, 日本観光研究学会第23回全国大会論文集, pp.117-120.